パンチ力男子顔負け

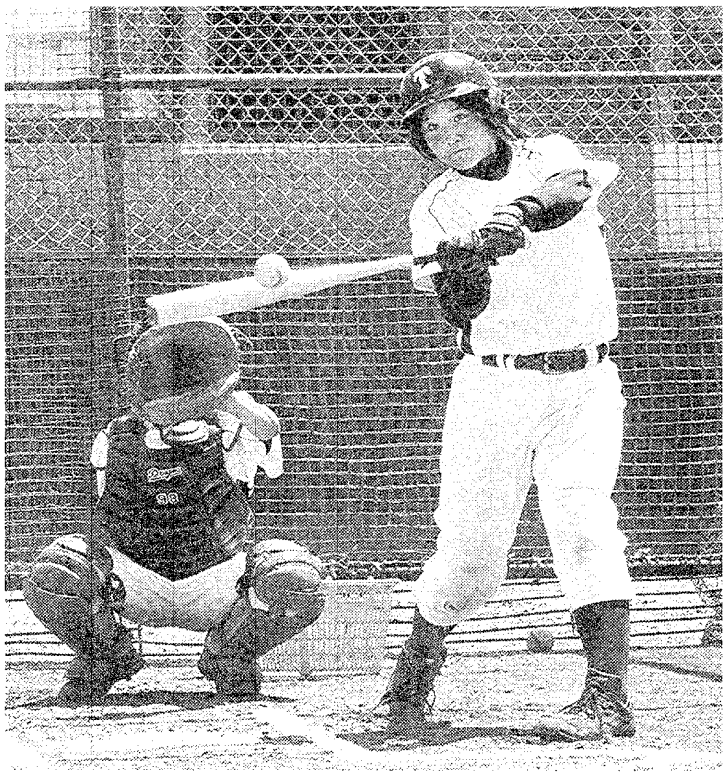
豊田リトルシニアで実戦の夏レギュラーで全国切符だ

尾西未紗

チームの紅一点

中スポ杯リトルシニア日本選手権東海大会 あす開幕

中学生の硬式野球チーム、豊田リトルシニアの尾西未紗内野手（豊田市前林中3年）はチームで紅一点の女子選手。打撃のパンチ力は男子顔負けで、激しいレギュラー争いを展開中だ。野球が大好きで、小学1年から硬式一筋。5日に開幕する中日スポーツ杯争奪第23回日本選手権東海大会（中日スポーツ後援）では、自らのバットで全国キップを勝ちとろうと意気込みは半端じゃない。



鋭い当たりを飛ばす尾西未紗＝愛知県豊田市浄水グラウンドで

女子プロ野球が誕生するなど、女性の進出が目覚ましい野球界だが、男子に交じって活躍する選手は少ない。中部地方では、中学3年生で硬式野球を続けているのは、ボーイズリーグを含めても尾西ただ一人だ。

身長167㌢、体重65㌔。男子に交じっても見劣りしない体格。違うのは髪型。男子は全員イガグリ頭に対し、きれいな長髪がトレードマーク。

課題は守備と走り

定位置奪回へ筋トレ

フリー打撃では全身を使った大きなスイングでライナーを連発する。

「腕相撲は並の男子には負けない」（尾西）というパワー自慢。約90㍍ある左翼フェンスを直撃することもたびたびだ。飛距離は男子選手の平均を上回る。「ボールをとらえるうまさは天性のものがある。ストレートには本当に強いですよ」と小林晋也監督(53)はお墨付きを与える。

課題は守備と走力だ。昨秋は3番、一塁でレギュラーだった。しかし3年生になり、男子が一回り成長すると、パワーとスピードで逆転された。定位置奪回を目指し、素振りと腹筋、背筋の筋トレを欠かさない。

兄3人野球に励む

負けん気は兄譲りだろう。3男2女の末っ子。3人の兄はみな豊田リトルー同リトルシニアで野球に励んだ。長兄の真広さん(21)は中京（岐阜）の内野手で07年のセンバツに出場、次兄の広基さん(19)は九州共立大でプロを目指す捕手である。

豊田リトルでは小6で5番、三塁手で全国大会に出場した。「ママゴトに興味はなかった」という尾西。周囲の男子は兄弟と変わらない。中学生になってリトルシニアに進んだとき、小林監督が練習量や遠征先での部屋割りで女子の尾西に配慮をしたところ「区別はいやだ」と譲らなかった。

父親の賢司さん(45)が「プリクラを集めたり、涙もろい面もある普通の娘」と話す尾西だが、伊藤徳城外野手（3年）は「小1から一緒だから女の子って意識したことはないです」という。尾西は「試合に出て、リトルからの仲間と一緒に全国大会に行きたい」と集大成の夏に懸けている。

（高野行正）

◆豊田リトルシニア　30年の伝統があり、東海連盟4番目の老舗チーム。愛知県豊田市を中心に活動し、選手数は53人。全国大会は2007年春の全国選抜大会と夏の日本選手権でともにベスト16に進出したのが最高成績。主なOBにヤクルトのユウキ投手、広島にドラフト1位で入団した新人の堂林翔太内野手らがいる。今年は〝弟分〟の豊田リトルが7月4、11日に東京で開かれる日本選手権に出場を決めている。